

“KANAGAWA”
福祉タイムズ
2003 6 No.619

発行日 2003年（平成15年）6月15日
毎月1回15日発行
発行所 〒221-0844 横浜市神奈川区沢渡4-2
社会福祉法人 神奈川県社会福祉協議会
TEL045-311-1423 FAX045-312-6302
<http://www.progress.co.jp/members/jinsyakyo/>
編集発行人 清水勝夫
定 価 100円（郵送料込）
印刷所 神奈川新聞社
昭和27年1月30日 第三種郵便物認可



「思いを声にする代弁者」Yネットオンブズパーソン委員会の厚坂幸子さんは、月に3カ所施設を訪問する。活動当初は、利用者からのたくさんの声が出ると思っていたが実際は違った。「皆自分は何か言える立場にないと思っていたのでは。日常会話の中で、その人の奥底にある不安や不満、願いを、どれだけ受け止められるかです」と語る。一番嬉しかったのは苦情ではなく希望がかなった方がいたこと。辛い時「こんなに頑張って生きている人がいるんだと勇気づけられるんです」と微笑む。（写真・文 菊地信夫）



先日、親しい友人から結婚記念日に、胡蝶蘭を頂きました。美しい花を眺め四十余年前を回想しながら、人の生きがいとは、特に後期高齢者の生きがいとは何んだろうか…と自問自答しています。

私自身満七十歳を過ぎ、古来「希」と言われる後期高齢者の仲間入りをするような身となった今、改めて「生きがい」と問われると、即座に答えられないのが本音です。それでも、人生を豊かにするためには、目的意識を持ち、健康で何時も仲間と仲良くすることと自分に言い聞かせております。

私の勤める養護老人ホームに住まわれている、高齢者の平均年齢は八十歳。総体的には素晴らしく元気です。それは、一人ひとりが社会のお役に立っているという自覚と自負が持てるよう、人生経験を生かせる環境づくりを心がけているせいかもしれません。また、四人部屋から個室に建物が改築されたこともあり、最近では、皆が胸を張って生活されている感じがいたします。

超高齢社会に向け、老人福祉施設は、高齢者の生活と生命を守る温かな「家庭」であり、今日も利用者がいきいきと生活しています。

共楽荘施設長 阿部秀昭

目次……………CONTENTS

平成14年度県社協事業報告と決算……………	2・3
県共同募金会・平成14年度配分結果と決算……………	4
「全国盲人福祉大会」湘南の地で開催される……………	5
需要調査にみる福祉人材……………	6
かながわ長寿社会開発センターいきはつらつ……………	7
連載・心のゆたかさはくむ(3)……………	10・11

県民の活動拠点づくりと福祉サービスの充実に向けて

―平成14年度県社協事業報告・決算―

平成14年度は、本会事業の基本計画である「新 神奈川県社会福祉協議会活動推進計画」の二年次にあたり、新たに「ともしびセンター」を設置。「かながわボランティアセンター」「かながわ権利擁護相談センター」の3センターをもって『かながわ福祉推進センター』とし、県民福祉活動支援の拠点とする体制を整えました。

また、介護保険制度の見直しや支援費制度の準備等に対応するため、市町村社協・施設経営法人等を支援する事業を行うとともに、福祉サービスの質の向上に向けた、福祉サービス評価の仕組みに関する検討等を行いました。

以下、平成14年度の事業の中から主なものの概要を紹介します。

セルフヘルプ支援と課題への対応

平成十三年の「第十回全国ボランティアフェスティバルかながわ」の課題を踏まえ、セルフヘルプ活動支援機能の充実に向け、「セルフヘルプ支援事業推進方針」を作成するとともに、かながわ県民センターに活動拠点を整備しました。

また、思春期におけるひきこもり・不登校・非行等の課題を抱える青少年への支援として、県内各機関・団体を調査し「思春期サポート資料集」にまとめたほか、市民講座を開催しました。小・中学校での「総合的学習の時間」の導入に伴い、社協を中心とした「福祉教育」の再確認と今後の展開について検討、成果をまとめました。

児童・生徒の福祉意識醸成に向けた「ともしびポスター・絵本コンテスト」「福祉作文コンクール」では、特にポスター・絵本に過去最多の応募があり、関心の高さが伺えるものとなりました。

さらに、児童虐待防止対策支援員を県所管児童相談所に配置し、虐待防止に努めました。

市町村基盤の地域福祉の推進

県内市町村社協の共通指針である「改訂地域福祉プラン21」に基づき、市町村社協の体制基盤強化

等の支援を引き続き行いました。

特に、地域福祉活動計画の策定・進行管理や、介護保険制度や支援費制度に関わる事業の運営、新会計基準に基づく経理処理実務について支援を行いました。また、モデル地区での子育てサロン活動の立ち上げ支援等、子育て支援を推進するとともに、市町村域における在住外国人の生活支援の状況を調査し、報告書にまとめました。

ともしび運動の更なる展開を図るため、十二月九日の「障害者の日」を中心に、啓発活動を全県で実施。また、障害者の自立と社会参加に向け、「ともしびショップ」の設置を支援しました。

※かながわ長寿社会開発センター事業報告は本紙七面に掲載

権利擁護の基盤の確立に向けて

かながわ権利擁護相談センター（通称：あしす）の「権利擁護相談」は、前年度の千九十八件から千四百二十九件に増加しました。

また、市町村社協等が窓口の「地域福祉権利擁護事業」においても、利用者数は前年度の二百九十五名から六百四十四名と増加しました。これに伴い、市町村社協の生活支援員や関係者等を対象とした研修の充実を図りました。

かながわ福祉サービス運営適正

平成14年度社会福祉法人神奈川県社会福祉協議会収支計算書

自 平成14年4月1日
至 平成15年3月31日
(単位：円)

会 計 区 分	収入合計額	支出合計額	差引残額
一 般 会 計	11,861,079,689	11,497,184,017	363,895,672
公 益 事 業 特 別 会 計	100,241,328	99,310,441	930,887
収 益 事 業 特 別 会 計 (事 業 収 支)	49,697,471	44,109,170	5,588,301
生 活 福 祉 資 金 特 別 会 計	621,677,732	595,875,284	25,802,448
県 単 生 活 福 祉 資 金 特 別 会 計	45,146,868	25,481,658	19,665,210
生 活 福 祉 資 金 貸 付 事 務 費 特 別 会 計	85,778,499	85,778,499	0
離 職 者 支 援 資 金 特 別 会 計	6,908,524,118	6,908,524,118	0
離 職 者 支 援 資 金 貸 付 事 務 費 特 別 会 計	67,332,320	67,332,320	0
合 計	19,739,478,025	19,323,595,507	415,882,518

化委員会が行う「苦情解決・運営監視事業」については、苦情申出件数は前年とほぼ同数だった一方で、相談等対応回数は、前年度の八百六十四回から千六百十二回と大幅に増加。解決困難な事案が増えていることが伺えました。



社会福祉法人神奈川県社会福祉協議会総合貸借対照表			
〈一般・公益・収益会計〉		平成15年3月31日現在 （単位：円）	
資 産 の 部		負債・純資産の部	
流動資産	468,540,488	流動負債	98,387,162
現金	63,805	未払金	67,612,755
預貯金	448,469,612	預り金	26,980,927
未収金	14,348,357	前受金	3,793,480
前払金	5,658,714		
固定資産	9,791,584,183	固定負債	6,407,466,563
基本財産	2,125,290	長期借入金	5,893,060,000
他固定資産	9,789,458,893	退職給与引当金	510,587,563
		長期預り金	3,819,000
		基本金	2,125,290
		基本金	2,125,290
		基金	2,274,853,179
		ともしび基金	2,174,853,179
		民間社会福祉従事者福利厚生基金	100,000,000
		他の積立金	1,020,302,820
		次期繰越活動収支差額	456,989,657
資 産 合 計	10,260,124,671	負債・純資産合計	10,260,124,671

〈生活福祉資金関連5会計〉			
資 産 の 部		負債・純財産の部	
流動資産	6,803,745,415	流動負債	12,668,281
預貯金	6,797,592,114	未払金	11,566,141
未収金	6,072,932	預り金	475,210
前払金	80,369	仮受金	626,930
固定資産	4,070,516,538	固定負債	10,826,207,067
運用財産	4,070,516,538	交付金	10,636,900,000
		△交付金	0
		県単交付金	427,476,000
		県単修学資金免除金	△237,955,100
		△県単交付金	△213,833
		基金	4,048,462,791
		運用財産基金	4,048,462,791
		積立金	△10,802,721,587
		繰越金	6,789,645,401
資 産 合 計	10,874,261,953	負債・純財産合計	10,874,261,953

社会福祉法人神奈川県社会福祉協議会財産目録
平成15年3月31日現在

資産の部	
流動資産	7,272,285,903円
現金	63,805円
預貯金	7,246,061,726円
前払金	5,739,083円
未収金	20,421,289円
固定資産	13,862,100,721円
基本財産	2,125,290円
他固定資産	13,859,975,431円
資産合計	21,134,386,624円
負債の部	
流動負債	111,055,443円
仮受金	626,930円
未払金	79,178,896円
預り金	27,456,137円
前受金	3,793,480円
固定負債	17,233,673,630円
交付金	10,636,900,000円
県単交付金	427,476,000円
県単修学資金免除金	△237,955,100円
△県単交付金	△213,833円
銀行借入金	5,893,060,000円
退職引当金	510,587,563円
長期預り金	3,819,000円
負債合計	17,344,729,073円
差引正味財産	3,789,657,551円

生活の自立を支援するために

生活環境全体のバリアフリー化の普及を図るため、福祉用具・住宅改造相談並びに情報提供を行いました。人材育成面では、新たに介護支援専門員等の資質向上を目的とした「介護支援専門員等福祉用具アセスメント研修」のほか、福祉用具の学び方や自助具利用、住宅改造セミナーを実施しました。

また、福祉用具等展示場に、障害者対応機器や体験コーナーを整備。IT支援に向けた推進会議の

福祉人材の確保と育成の推進

開催やホームページ作成体験研修等を実施し、情報バリアフリーに向けた体制づくりに着手しました。経済的自立への支援である「生活福祉資金貸付事業」は、八百七十一件を貸付決定し、総額六億三千五百万円を貸付。生計中心者が失業した世帯を支援する「離職者支援資金」は、百九十五件を貸付決定し、貸付総額は二億千九百万円でした。

では、厳しい雇用情勢を鑑み、福祉の職場体験制度や短期雇用職員登録制度等の「緊急地域雇用対策特別事業」を実施。また、「中高年福祉職場体験研修」や「看護職者のための福祉施設就労促進セミナー」等を開催し就労支援に努めました。福祉従事者研修は二十五本実施。延べ一万四千人が受講されました。特に「介護支援専門員現任研修」では、基礎課程を居宅と施設に分けて実施。新たに専門課程を設けるなど、資質向上に向け研修の充実を図りました。また、ホームヘルプサービス関係者の研修として、現場のホームヘルパーの指導にあたるサービス提供責任者を対象に、演習中心の研修を実施しました。

法人の基盤強化・質の向上

福祉サービスの質の向上に向け、「福祉サービス第三者評価の仕組み検討委員会」を設置し、基本指針をまとめるとともに、「評価機関設置準備委員会」により、具体的な評価項目等の検討や評価調査者の養成研修等を実施しました。福祉施設経営法人への支援では、七法人に対し、会計組織の指導を行う「自主監査事業」を実施。併せて、国の総合規制改革会議等で社会福祉法人のあり方が問われる中、本会経営者部会において今後の経営体制整備や課題解決に向け研修を実施しました。

平成十四年度共同募金・配分結果のご報告

平成十四年十月から三カ月間にわたり実施されました共同募金運動は、引き続き厳しい社会経済情勢のなかで行われましたが、皆さまのご支援により、十三億四千百七十万円を超える成果を頂戴しました。

県民の皆さまの善意に對しまして、県内八百八件におよぶ福祉施設・団体から資金要望が寄せられ、県共同募金会では、「配分委員会」を中心に、配分申請施設の実地調査を行うなど、慎重に配分案の策定作業をすすめてきました。

策定されました配分案は、三月十九日開催の「理事会」「評議員会」におきまして、更に厳正に審査され、後掲のとおり配分が決定されましたのでご報告申し上げます。

また、本会では「社会福祉法」の施行を機に、十三年十月、「共同募金あり方委員会」（委員長 阿部志郎）を組織して、同法に明記された「地域福祉を推進するための共同募金」のあり方について検討を重ねてきました。

その結果、本年三月、「これからの共同募金運動を推進するために（提言）」として、次の内容がまとまりましたことを併せてご報告申し上げます。

平成14年度共同募金・使途概要

▽法定社会福祉施設・更生保護施設の各種処遇用設備の整備事業等に(103施設)	141,146,120円
▽障害者地域作業所・生活ホームの作業機器・福祉車両の整備事業等に(192施設)	151,000,000円
▽児童・障害者等を支援する各種団体の活動支援に(68団体)	58,204,155円
▽在宅高齢者等のための家事介護・配食・送迎サービス団体の活動支援に(230団体)	49,600,000円
▽市区町村社会福祉協議会が実施する地域福祉活動支援に(62団体)	356,315,160円
▽地域年末たすけあい援護事業を行うための活動支援に(59団体)	453,186,579円
▽大規模災害時等、緊急時の配分準備金として	12,510,000円
▽共同募金運動を実施するための事業経費として	148,048,000円
合 計 (714件) ※	1,370,010,014円

※上記使途財源には、前年度繰越金等を含みます

▽共同募金運動の意義
▽募金活動の推進
▽附加価値のある配分事業
▽広報活動の推進
十四年度の共同募金運動にいろいろなお立場でご協力を賜りました皆さまに、厚く御礼申し上げますとともに、今後の共同募金運動に一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成14年度収入支出決算総括表

平成15年3月31日		(単位：円)		
会 計 名	収入決算額(A)	支出決算額(B)	差引残高(A)－(B)	備 考
一般会計	156,853,671	146,321,377	10,532,294	
寄附金特別会計	1,450,340,877	1,441,153,514	9,187,363	
たすけあい福祉資金特別会計	432,121,491	10,233,236	421,888,255	緊急配分資金
職員退職給与積立金特別会計	38,902,876	1,300,000	37,602,876	
合 計	2,078,218,915	1,599,008,127	479,210,788	

総合貸借対照表

平成15年3月31日		(単位：円)	
借 方	貸 方	勘定科目	残 高
勘定科目	残 高	勘定科目	残 高
流動資産	1,588,858,338	流動負債	1,058,796,955
現金	21,872	預り金	2,011,835
預け金	20,000	未払金	205,000
預貯金	1,588,016,466	未払配分金	1,028,390,120
短期職員貸付金	800,000	役員退職給与引当金	940,000
固定資産	18,165,385	開拓啓発事業資金引当金	27,250,000
職員貸付金	824,690	固定負債	38,782,795
共済年金預け金	8,032,200	共済年金積立金	8,032,200
備 品	6,961,265	減価償却累計額	5,210,595
車両運搬具	2,347,230	災害準備引当金	25,540,000
		資本	509,443,973
		基本金	9,300,000
		運用基金	10,933,185
		運営費積立金	10,000,000
		次年度繰越金	479,210,788
合 計	1,607,023,723	合 計	1,607,023,723



神奈川県共同募金会・平成十四年度決算のご報告

本会・定款第三十八条の規定にもとづき、平成十四年度収支決算内容を、次のとおり公告いたします。

◆県共同募金会 ☎ 045－312－6330



多くの来賓が臨席される中、全国からの参加者に歓迎の言葉を述べる県視障協鈴木会長

「全国盲人福祉大会」湘南の地で開催される

去る五月十七日、「第五十六回全国盲人福祉大会神奈川大会」が小田原市で開催されました。

視覚障害者の自立と社会参加の機会を拡大し、健常者と障害者がともに生きる福祉社会の実現と、視覚障害者福祉の推進を図ることを目的とした本大会。大会前二日間に渡り、大磯町で行われた役員会、代表者会議等への参加も含め、全国から約二千人の視覚に障害のある方々や関係者が集いました。

式典では、主催者で本県大会実行委員会の、神奈川県視覚障害者福祉協会・鈴木孝幸会長より、「支援費制度の実施等、障害者福祉が変革しつつある中、創立五十五周年という節目の年を迎える本協会

が中心となり、本県で大会を開催

できるということに変意義深いものと感じている。参加者、そして大会を支えてくださった関係団体・ボランティアの皆様から感謝するとともに、この大会が、県内はもちろん全国の福祉向上の一助となることを祈念したい」との歓迎の言葉が述べられました。

同じく主催者の日本盲人会連合・笹川吉彦会長からは、「本大会を二十一世紀の障害福祉の推進に向けた第一歩として、力強く前進していきたい」との挨拶がありました。

また、松沢成文神奈川県知事や小澤良明小田原市長等、多くの来賓の方々からも歓迎のご挨拶がありました。

大会議事では、昨年度活動報告と本年度運動方針が確認されるとともに、就労確保に向け、法的に位置付けられてない資格名称を用いた鍼灸師養成施設新増設の阻止や機能訓練指導員、ヘルスキーパー等の優先採用、支援費制度の早期改善、環境及び情報バリアフリーの推進等の要望が盛り込まれた決議並びに宣言が、満場の拍手で採択されました。

◆(偏)日本盲人会連合
03 | 3 2 0 0 | 0 0 1 1

読者の声

一滴のくやし涙

君なんか生まれてこないほうが、よかったんだと、何度いわれただろうか。偏見と差別という心の濁った目に、射すくみいたたまれずにいる僕。きつとその人は、本当は言いたくないのに、仲間が集まると言ってしまう、弱い人間なんだ。

自分のしたことが、どんなに僕を傷つけたか、いつか分かってくれる。そう信じよう。

僕だって弱い人間なんだから。一滴のくやし涙は、僕に本当の「勇気」とは何かを教えてくれた。

ものごころが分かる頃、私は「ツンボ! ツンボ!」とからかわれる「片端者」の身であることを知らされました。

ある時、叔母が教会に連れていつてくれました。そこで、私と同じ悲しみにひしがれ十字架を背負って

歩むイエスを見ました。その姿に、私自身の姿を重ね、何ごとにも他人に負けたくないという野心を持ちました。しかし、今。ようやく私自身の「傲慢」さに気づかされました。

障害のある人を、人はかわいそうだと言います。でも人間は、誰しも弱さを持っています。強いから助けるのではなく、お互いに弱さを持つているからこそ、扶け合っていかなくてはならない人生なんです。その人の「障害」のみを見るのではなく、「人間」全体を見ることが大切なんだと学ばされました。その人の苦しみを、自分のものにしてこそ扶け得るのです。そのためには私達自身が、重い苦しい悲しみを味わう、共に心から分かちあう人間関係を積み重ねてこそ、はじめてでき得るのではないでしようか。

(大石忠)

▶投稿をお寄せください◀

「福祉について思うこと」をテーマにした投稿をお待ちしています。他のテーマや本紙内容へのご意見ご感想でも結構です。分量は700字程度。匿名でも結構です。



郵送：〒221-0844
横浜市神奈川区沢渡4-2
FAX：045-312-6302
Mail：kikaku@jinsyakyo.or.jp
いずれも「県社協企画課タイムズ係」と明記のこと

県社協のひまぼ

需要調査にみる福祉人材

かながわ福祉人材センターでは、人材確保に向けた基礎資料とするために、毎年、県内福祉施設の人材に関する調査を行っています。

平成十四年度は、千四百八十九施設を対象に実施し、八百七施設から回答(回収率五四・二%)を得ました。

それによりまずと、職員配置状況は一施設あたり平均三十四人。うち、非常勤・パート雇用は三五・六%の十二・一人。約三人に一人の割合という、高い比率を占めました。

また、資格保有者は前年比二四・六%増と大幅な伸びを示しています。保有資格の上位は、前年を二ポイント上回った「ヘルパー二級」を筆頭に、「保育士」「介護福祉士」「社会福

施設における資格保有率（一部施設抜粋）

資格年度種別	ホームヘルパー2級		保育士		介護福祉士		社会福祉主事		介護支援専門員	
	H14	H13	H14	H13	H14	H13	H14	H13	H14	H13
老人福祉施設	34.3	30.5	1.2	1.4	30.6	29.8	14.8	15.7	10.9	10.3
老人保健施設	28.8	29.8	0.4	1.6	29.9	26.9	6.7	4.4	9.1	6.8
身体障害施設	14.2	6.2	4.6	3.1	21.5	19.5	37.9	36.7	6.2	10.6
知的障害施設	8.0	5.9	8.8	8.8	4.2	4.4	40.0	43.2	3.2	2.9
調査施設全体	21.4	19.4	20.2	20.2	19.8	18.6	16.8	17.9	7.0	7.2

介護支援専門員実務研修受講試験

平成15年度神奈川県介護支援専門員実務研修受講試験を、次のとおり行います。

- ◇試験日：平成15年10月26日(日)午前10時開始
- ◇試験会場：東海大学湘南校舎（平塚市北金目1117）
- ◇受付期間：7月14日(月)～8月4日(月)〈4日消印有効〉
※所定の封筒で簡易書留による郵送のみ受付
- ◇受験手数料：7,000円
- ◇受験地基準：申込時点で、受験資格に該当する業務に従事している場合は、その勤務地が神奈川県であること。従事していない場合は、住所地が神奈川県であること。
- ◇受験資格：医療・保健・福祉の国家資格等を有し、実務経験が5年かつ900日以上あること。訪問介護員2級等を有し、所定の相談および介護業務経験が5年かつ900日以上あること。資格に関らず介護業務の経験が10年かつ1,800日以上あること。また、欠格事由に該当しないこと（詳細は試験案内でご確認ください）。
- ◇試験案内配布場所：県・市区町村社会福祉協議会／市区町村役所(場)の介護保険担当窓口／県保健福祉事務所／県政情報センター等で、7月1日(火)より配布予定
- ◇出願先：神奈川県社会福祉協議会
「介護支援専門員実務研修受講試験実施本部」
〒221-0844 横浜市神奈川区沢渡4-2
- ◇問合せ：介護支援専門員実務研修受講試験実施本部
☎045-311-8899
県高齢者保健福祉課
☎045-210-4738



社主事任用資格」の順となっています(表参照)。初任給の平均は、十七万三千五百七十五円(大卒)、十六万四千二百九円(短大・専門学校卒)、パートの時給については九百十二円と、ほぼ横ばいの状況が続いています。

なお、今回の調査結果を含め過去五年間(項目によつては四年)の動向を分析してみたところ、いくつかの傾向が見えてきました。

一つは、常勤職員を圧縮し、パート職員に依存していく傾向があること。特に常勤の事務員(九年度の六・七人が一・四人に)や指導員(同九・二人が三・五人に)が減少し、介護職を中心にパート職員(十年度の二・五

人が八・一人に)が増加していることです。もう一つは、十二年度を境に「ヘルパー二級」(十一年度の七百二十三人が一千九百三十六人に)や「保育士」(同五百八十六人が二千九百十三人に)資格を有する職員が急増していることです。

センターではこのような状況をふまえ、今後も福祉施設でのより良いサービスの提供ができるよう、社会福祉事業従事者の確保と社会福祉事業発展のために、各種事業を展開して行きたいと考えています。(福祉人材課)

※調査報告書は有償にて頒布中です。

お問い合わせは ☎045-311-1428 まで

かながわ長寿社会開発センター

いき

はつらつ

高齢期を健康で、いきいきと過ごしたいー
明るく活力ある長寿社会の実現に向けた取
り組みを紹介します。

<問合せ> ☎045-311-8734 FAX045-312-6302
http://www.nenrin.or.jp./kanagawa/

第2回かながわシルバー美術展

出展作品募集！

仕事や家事もひと一段落して、「何か新しいことに挑戦してみよう」「忙しくてやめてしまったけど、また始めてみようか」と、絵画や写真などに取り組んでいる高齢者の皆さん。力作・秀作を紹介してみませんか？初めての出展也大歓迎です！ぜひご参加ください！



- 【対 象】県内居住の満60歳以上(昭和19年4月以前生まれ)でアマチュアの方
- 【展示期間】9月12日(金)～14日(日) 10時～17時(14日は15時まで)
- 【会 場】アートガーデンかわさき (JR川崎駅徒歩3分)
- 【応募〆切】8月8日(金)
- 【申 込 み】所定の応募票が必要となります。センターまでお問合せください(電話・FAXは上記に記載)

部門	規 格
日本画	①10号～50号。 ②要額装(額縁幅は3cm以内。アクリル可、ガラス、屏風、軸装不可)
洋画	①油絵、アクリル画、水彩、素描、版画、パステル画 ②10号～50号(版画は10号未満可)。 ③要額装(額縁幅3cm以内。アクリル不可、ガラス可。油絵・アクリル画はアクリルも可)。
彫刻・工芸	①彫刻作品は最大高さ200cm×幅100cm×奥行100cm、重量は最大200kg。 ②工芸作品は、陶芸・染織・漆芸・金工・木竹工・人形・その他。 ③立体の工芸作品は高さ60cm以内、平面(壁画含む)作品は50号以内。但し平面作品30号以上の作品は、額縁幅3cm以内。 ④屏風は二曲とし、平面時サイズは高さ149cm×横140cm以内。
書	①漢字、かな、調和体、前衛(篆刻、刻字を含む) ②額、枠、軸装いずれも1㎡以内とし、重量は5kg以内(表装仕上がり寸法)。縦形式は一辺210cm 横形式は一辺181cm以内。ガラス不可。 ③篆刻作品は印影のみ(39cm×30cm以内の額装で出品)
写真	①カラー、モノクロの四つ切(ワイド六つ切可)の単写真。 ②作品は、壁面に展示できる状態で出品すること。



かながわ長寿社会開発センター
平成十四年度事業報告

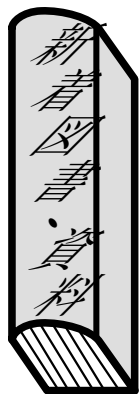
◇第十四回かながわ高齢者文化祭
九月十四、十五日、県社会福祉会館
ほかで開催。健康生きがいづくりや世
代間交流などのイベントに約千人の参
加者がありました。

◇第一回かながわシルバー美術展
初年度にもかかわらず、百五十三点
の応募をえて、九月二十日から二十二
日まで、アートガーデンかわさきで作
品展示を行い、たくさんの方々鑑賞
いただきました。

◇全国健康福祉祭への選手団派遣
福島県で十月十九日から二十二日に
開催された「全国健康福祉祭ふくしま
大会」に、神奈川県選手団十四種目、
百九名を派遣しました。

◇健康生きがいづくりの情報提供
リニューアルしたホームページや本
紙を活用し、健康生きがいづくりを情
報面から支援しました。

◇シニアの仲間づくり支援
仲間づくりや、グループ活動への相
談に応じるとともに、アドバイザーの
紹介、シニアの活動事例集の発行など
を行いました。



図書

読んでみよう！

★障害者ケアマネジメント実践事例集～支援費時代の地域生活を支えるために（大阪障害者ケアマネジメント協会、中央法規）

障害者が必要とするケアマネジメントとはどのようなものか、事例を提示しながら、その手法と留意点、今後の課題等をまとめている

★標準 ケアサービス計画在宅版～現場でのケアサービスの確認と修正に使える（井口昭久・益田雄一郎他、日総研出版）

★標準 ケアサービス計画施設版～ケアプランの修正と立案の参考に（井口昭久・

私のおすすめの1冊

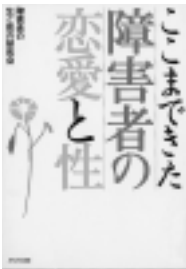
「ここまできた障害者の恋愛と性」
障害者の生と性の研究会編著



日本女子大学社会福祉学科
実習講師 川上るり子

この世に生まれてきたからには、誰だってすてきな恋愛をして、結婚もしたいと思うものです。しかし、これまで障害者の性はタブー視されてきたのではないのでしょうか。

3冊シリーズの第3弾である本書では、障害者本人が、自らの愛と性をありのままに語っています。結婚もセックスも恋愛すらままならぬ障害者の実情が、風俗に走る障害者や、セックスケアのボランティアを題材に赤裸々に描かれています。また、恋愛を成就させた人の物語には、愛を勝ち取るためのヒントが盛り込まれていて、読む人に勇気や希望を与えてくれると思います。是非ご一読を。



2001年刊
かもがわ出版・定価2,200円

資料

価値あり！

★障害者福祉サービスの契約に関する研究事業 報告書（全社協）
契約締結過程で必要となる重要事項説明書や利用契約書等のモデルを作成、事業者として取り組むべき情報提供のあり方、契約支援のあり方について研究し、まとめた報告書

益田雄一郎他、日総研出版）

★IT時代の介護ビジネス（森本佳樹他、ミネルヴァ書房）

★社会福祉における資源配分の研究（坂田周一、立教大学出版会）

★社会福祉法人設立・運営ハンドブック2003年度版（偏運営研究会、中央法規）

★改訂版 仕訳で示す市町村社会福祉協議会の会計（塩原修蔵・岩波一泰・埼玉県社協、筒井書房）

★平成14年度 全国母子生活支援施設実態調査 報告書（全社協）

★ショートステイの利用に関する「ニーズ」と「サービス調整」の実態調査 結果報告書（東京都社協）

★区市町村社会福祉協議会における成年後見制度への取組みに向けて～検討委員会報告書（東京都社協）

★つどう・でかける・あそぶ・ハマる～障害のある子どもと大人の余暇を考える余暇活動研究事業報告書（全日本手をつなぐ育成会）

★在宅高位脊髄損傷者の介護システムに関する調査報告書（日本せきぎ基金）

★地域福祉権利擁護事業の機能拡充及び基盤強化に関する研究～山口県推進モデル事業報告書（山口県社協）

★保健教育センター32年のあゆみ（神奈川県保健教育センター）

「福祉資料室」をご利用ください！

閲覧室のほか、文献検索、利用相談等のサービスを行っています。

◆利用時間：月～金（第3金曜、祝日、年末年始等を除く）の9時～17時

◆問合せ：☎045-311-8865
FAX045-313-9341

◆インターネットでの資料検索
<http://www.progress.co.jp/members/jinsyakyo/tosyo/>

～「新着情報コーナー」ができました。ぜひご利用ください！～



今月のいちおし
クリック！

「こどものe.com」のホームページをご紹介します

1～15歳までの子どもたちの絵画を集めた、児童絵画のデータベースです。会員登録をすると、1点300円で作品が掲載できるほか、作品を使用して挨拶状やWEB上で絵本の作成等も行うことができます（団体参加も可）。また、会員外の方でも閲覧は無料ですので、作品にまつわる微笑ましいエピソードなどと併せ、楽しんでみてはいかがでしょうか？



URL <http://www.kodomonoe.com/>

Information

役員会の動き

◇理事会Ⅱ5月16日・①正会員入会申込み、②理事の推薦、③評議員の選任、④各種委員会委員の選任、⑤本会活動推進委員会委員の選任、⑥県指導監査結果への対応、⑦本会職員給与規程の一部を改正する規程(案)、⑧本会事務局職員就業規程の一部を改正する規程(案)、⑨未収金の処理、⑩平成14年度事業報告並びに収入支出決算報告(案)、⑪平成15年度一般会計並びに特別会計補正予算(案)について

◇新会員紹介

【施設部会】介護老人福祉施設みやうち、知的障害者更生施設(通所) みやうち、ソーレ平塚療育園、すくすく保育園
◇評議員会Ⅱ5月29日・①理事の選任、②未収金の処理、③平成14年度事業報告並びに収入支出決算報告(案) について

丸紅基金社会福祉助成金

◇対象Ⅱ①非営利の法人が実施主体であること(法人でない場合は3年以上の活動実績と組織的活動を行っていること)、②明確な目的を持ち、実施主体・内容・期間が明らかであること、③助成決定から1年以内に実施、完了すること、④一

般的な経費不足の補填でないこと、⑤申込案件に国や地方公共団体の公的補助が見込めないこと。又他の民間機関からの助成と重複しないこと

◇助成額Ⅱ一件につき200万円を上限

◇×切りⅡ6月30日(月)(消印有効)

◇問合せⅡ(偏)丸紅基金

☎03―3282―2474・7014

FAX 03―3282―2462

オンブズマン養成基礎研修講座

◇内容Ⅱ湘南ふくしネットワークオンブズマンの6年間の実践をもとに、オンブズマンの役割や制度等を学びます
◇日時Ⅱ7月6日(日)～8日(火)(時間はお問合せください)

◇会場Ⅱウィング横浜(横浜市港南区)

◇参加費Ⅱ3万円

◇×切りⅡ6月30日(月)

◇問合せⅡ湘南ふくしネットワークオンブズマン事務局(江崎)

☎・FAX 0466―81―9218

鉄道弘済会社会福祉セミナー

◇内容Ⅱ①基調講演「人間の尊厳と社会福祉」、選択講座、②シンポジウム「人間の尊厳を守るために」、記念講演「私が思う人」(作家・澤地久枝)

◇日時Ⅱ①8月5日(火)10時～16時30分②6日(水)9時30分～15時30分

◇会場Ⅱ日本教育会館(東京都千代田区・定員800人)

◇参加費Ⅱ7千5百円

◇問合せⅡ(財)鉄道弘済会社会福祉部

☎03―5276―0325

FAX 03―5276―3606

社協・施設職員会計実務講座(通信課程)

◇対象Ⅱ市区町村社協及び社会福祉法人立の社会福祉施設の新任会計実務担当者(定員500人)

◇開講時期Ⅱ10月1日～平成16年3月31日(スクーリングあり)

◇受講料Ⅱ3万円(スクーリングにかかる経費は別途負担)

◇申込みⅡ申込用紙は郵送又はFAX、<http://www.gakuhin.gr.jp/>から入手(申込みは所属長による)

◇×切りⅡ7月7日(月)(消印有効)

◇問合せⅡ全社協中央福祉学院会計実務講座係(担当:瀬下・前川)

☎046―858―1355

FAX 046―858―1356

寄付金品あつらひをいっしょに

【一般寄付金】▽シマ会、〃おじさん達の飲み会〃▽広瀬公子▽田中良平▽脇隆志【交通遺児援護基金】▽大正琴サークル湖陽会▽西口明美▽島知佳子【子ども福祉基金】▽神奈川布教区婦人連絡協議会【としび基金】▽富士シティオ(株)▽ホテル観山▽(財)神奈川県信用組合協会(株)オリエントコーポレーション▽(財)神奈川県宅地建物取引業協会▽神奈川県立音楽堂▽外川一寛▽沼倉清治▽徳井康人▽高橋昭 (計一、九二七、〇七八円)
【寄付物品】▽神奈川県定年問題研究会▽神奈川県観賞魚親睦会▽(株)ティ・アンド・ティ・インターナショナル

(敬称略)

心ゆたかな保育者への道

2年間で夢を実現しよう

幼稚園教諭二種免許・保育士資格の取得が可能です

聖セシリア女子短期大学

幼児教育学科

〒242-0003 神奈川県大和市林間 2-6-11

☎046-274-8564(代) URL <http://www.cecilia-wjc.ac.jp>

社会福祉施設の企画、設計・監理、リニューアルから維持管理まで総合的に施設づくりをお手伝いします。

NTTファシリティーズ



NTTファシリティーズ 一級建築士事務所

株式会社エヌ・ティ・ティ ファシリティーズ
東京都港区芝浦3-4-1
☎ 0120-72-73-74
TEL 03-5444-5000
FAX 03-5444-5600
E-mail: info@ntt-f.co.jp
<http://www.ntt-f.co.jp/architect/index.htm>



介護老人福祉施設

心のゆたかさをはぐくむ③

装うことで「自分らしさ」を取り戻す②

前回は、「スキンカモフラージュ」の活動から、「化粧」を効果的に生活の中に活用することで、自分本来の姿を引き出し、個人の尊厳や大切さを感じてもらうことの意味について考えてみました。

「装い」を考える第二回目は今回は、「高齢者や障害者の方が着やすい服」を研究しているグループ「糸の詩」の活動から、生活の中での「衣服」の果たす役割とその効果についてご紹介したいと思います。

着やすい衣服を作ってみよう

「糸の詩」は、川崎市多摩区にある「登戸ドレスメーカー学院」の副院長である栗田佐穂子さんが中心となり、活動しているボランティアグループです。

「以前、交通事故で入院した私の息子が、腿をけがした時、治療の際にはズボンを下げねばならないと聞きました。そんな恥ずかしい思いはさせたくないという思いから、治療に支障のないよう、けがをした部分だけ開閉することのできるような衣服を探してみることにしました。しかし、当時高齢者の介護用のオムツや寝具などが、やっと少しちまたに回り始めた程度で、私の求めるような衣服はどこを探しても見つかりませんでした。そこで、それならば私が作ってしまおうとこの活動を始めました」と話す栗田さん。

現在は、洋裁経験の有無を問わ

ず、興味のある方や介護の経験のある方などが県内外から集まり、病院やリハビリ施設、福祉施設のほか、障害のある方々や保護者会等と交流しながら、「介護しやすく」「自立しやすく」そして「元氣が出る」衣服を作っているという活動を進めています。



「100のアイデアを発信すれば必ず1つは役に立つものがあるはず」そう話す栗田さん(中央)はいつも笑顔に溢れている

「衣服」は自己を表現するもの

糸の詩が、毎月開催している定例会に参加させていただきました。その日集まったメンバーは十五人余り。和やかな雰囲気の中、間近に迫っている作品展に向けての話し合いが進められていきます。

栗田さんが、メンバーの一人の方に「今あなたが着ているジャケット、もし両腕があまり上がらない状況だったら、どんな風に脱いだり着たりするかしら？」と問いかけてました。



車イスの方も簡単に着られるよう工夫されているドレス。皆で着て、見て、触って次のアイデアを考えていく

メンバーの方は、仲間の助言を受けながら、腕を上げないという条件の中でいろいろな方法を試していきます。その試行錯誤の中か

ら、着る方法だけでなく「袖付けを大きくしたら」や「裏地に滑る生地を付けたら」「全体を収縮性のある生地で作ったら」など、衣服の素材や形などに関するたくさんアイデアが生まれてきます。

また、実際に作品を着用した方からの感想や提案等を報告し合いながら、次の作品作りに向けた作業が進められていきます。

「一口に腕が上がらないと言っても、障害の程度はさまざまですから、相手の立場になり、それぞれの方の状況や希望を伺いながら作品を作るよう心がけています。

介護を必要としている方の衣服は、着せやすさや介護のしやすさに赴きがおかれがちです。もちろん体の体温や清潔を保ったり、危険から身を守ったりするという、衣服の基本的な役割を考えると、その部分を重視することも大切だと思います。では極端な話ですが、身体機能を守るためや恥ずかしさを隠すただけに、裸にならないようにに何でもいいから体に巻きつけていればいいのかというところでしよう。そんなことをしたら、他人に不快感を与え、社会生活が難しくなってしまうと考えるから、私たちは時間や状況、場所等に合わせて衣服を替えていくわけです。人は人の目の中で育つというよう

ひと・ネットワーク 128

「チャイルドラインに力を貸してください」

よこはまチャイルドライン
代表 徳丸のり子



《リーン》

「はい、よこはまチャイルドラインです」

ここ横浜に18歳までの子ども専用電話が誕生して1年。現在週に1回だけですが、子どもたちは待ちかねたように電話してきます。その数、年間2,261件、1日平均約45件。約30人のスキルを身につけた電話の受け手が、ひたすら子どもたちの声に耳を傾けてきましたが、今改めてそのニーズの高さを思います。

不登校や対人関係、いじめ、虐待、性の悩み…。子どもたちを取り巻く問題は深刻さを増し、その状況は一層見え難くなっています。小さな体に、誰にも言えない辛さや悲しみを抱え込んでいる子どもも少なくありません。

「聴いてもらえてよかった…」

「そう、またいつでもかけてきてね」

子どもたちは細い電話線の向こうで、ただ黙って自分だけの話を聴いてくれる人がいるというだけで、心を軽くさせることができます。安心して話せ、気持ちを受け止めてもらえたら、子どもたちは元気を取り戻し、自ら歩み始めるのです。

私たち大人にできること、それは1日でも多くチャイルドラインを開くことです。この秋には週2回にふやす予定ですが、毎日いつでも子どもたちがかけたいときにかけられる電話にしていくことは、大人の責任です。

そのためにはたくさんの人の知恵と力、そして資金が必要です。去年は、共同募金配分金をいただき事務所の備品などを整備することができました。ありがとうございました。

よこはまチャイルドラインの活動も緒に付いたばかり。今後、社会システムのひとつとして根付かせていくために、一人でも多くのご参加とご協力をお願いします。



に、自分を効果的に表現し、印象づけるための道具として衣服は大切な役割を果たしているのです。そう考えると、機能性がある上に、どんな人でも『着てみたい』と思うことのできるデザインや、色合いの衣服を考えていく必要があるのです」

選べる環境を広げていきたい

「我慢して着られるものなら着てしまおう」「仕方ないからあるものを着よう」と諦めるしかない今の社会の風潮を、何とか変えていこうと、糸の詩では講演会やファッションショーの開催、関係者との交流など精力的な活動を展開しています。

「気持ち良く着ることのできる自分らしい服。それは、ほんの少しの工夫があれば実現することが出来ます。一から作ることが大変

だと思ふなら、既製品にチャックを付けるだけでも、安全ピンを付けるだけでもいい。やってみようという意気込みが大切だと思ひます。そうした創意工夫の輪を広げることによって、衣服を選びとる自由が広がり、一人ひとりの方々が個性を発揮し、楽しく元気に生活できるようにになると嬉しいです」

◆グループ「糸の詩」(登録ドレスメーカー学院内)

☎044-911-2221

URL <http://www.n-dm.com/>

今月の視点



今回の取材のもう一つ考えてみたい視点。それは、「衣服」が相手に与えるイメージです。

私たちは、普段何気なく着ている「衣服」を、その人の個性を知る手がかりの一つとして見ているだけでなく、そこから発信されてくる様々な情報(生活の様子や心の状態)をも感じ取ることで、相手とどう接していけばよいのかを判断しています。

「介護や援助をする方々が、大変さや辛さが相手に伝わってしまふような衣服を常に着ていたら、相手の方はどう思われるか」そう話す栗田さんたちのグループでは、いきいきと楽しく介護や援助がで

きるよう、エプロンやユニフォームなどの開発も積極的にすすめています。

福祉の現場、特に生活施設では、個性や時間、状況に合わせた衣服を考えることは、日々の業務の多さからも難しい側面もあるかと思ひます。しかし、お互いを知るため、そして良い影響を与え合うためのものとして、利用者はもちろん、職員自身の「衣服」のあり方を考える機会を持つこと。そして、皆が豊かで楽しい生活を送ることができるよう、少しずつでも、工夫して、改善していこうと努力する姿勢を持つことが大切だということを感じさせられました。

(企画課)



「健康づくろ」や「子育て」一緒に語ろう

「コミュニケーション」談^{だん}（大和市）

少子化の流れを変えるため、各種制度の見直しや環境の整備が、全国的に進められています。

本年一月に、厚生労働省が全国の未就学児を持つ二千世帯の父母を対象に行った「子育て支援策等に関する調査研究」では、母親が保育サービス以外に求めているサービスとして、「子どもを遊ばせる場や機会」について「親のリフレッシュの場や機会」「親の不安や悩みの相談」等が上位を占めました。

このことから、子どもたちが健やかに育つためには、身近な地域の中で親の心を理解し、支えていく体制づくりが必要だということが読みとれます。

今回は、子育てや健康などの問題を話し合う母親のグループ、「コミュニケーション」談^{だん}（以下、談）のメンバーの皆さんにお話を伺いました。

自分で学び考えていく集まり

談は、大和市や綾瀬市などに住む母親たちが集まり、平成六年に



本年2月と3月に開催したストレスをテーマにした東洋医学講座の1コマ

活動を開始しました。

「おりしも当時、虐待や子育て環境の問題など、子どもをめぐる事件や出来事が、社会で問題視されるようになってきていて、同じ母親の立場であった私たちも、抱

テーマで、様々な活動をしています。

「子育てを語らう場『ほっとすぽっと』よかつ種^な」では、子育てや不登校の問題などについて、お母さん同士で気軽に話し合っています。専門的な知識よりも、談では、気がねすることなく、安心して仲間が集える雰囲気作りを第一に考えています」とメンバーの桜井さん・高山さん。

また、健康の活動を中心的に担う金田さんは、「更年期やガン、花粉症など、時事に話題となった様々な問題を取り上げ、特に予防医学を得意とする東洋医学の視点から健康づくりを考えていこうと、講演会などを開催しています。また、最近では、ストレスの問題などにも取り組んでおり、今後は、心と体の両面から健康を考える活動も進めていきたいと思っています」と語ってくれました。

母親同士の交流の中から、参加者一人ひとりが自分自身の生き方を見出し、それぞれに輝いて欲しい。そんな願いを込めた談の、今後の活動を期待したいと思います。

（企画課）

コミュニケーション「談」
☎ 046-264-0225（斉藤方）
URL <http://ainetio/dan/>

一社会福祉施設の設計監理一

株式会社 安江設計研究所
YASUE & ASSOCIATES'Inc.

東京都港区高輪2-19-17-808

TEL03(3449)1771(代) / FAX03(3449)1772
E-mail : yasue-a@nifty.com



入所更生施設（横須賀市）



新築・増築・改修等お気軽にご相談ください